

## DVD「裕次郎さんの施設見学」を鑑賞し、 終の棲家について考えてみませんか？

COML会報誌No.330(2018年2月号)で紹介しました、神戸市垂水区で活動するNPO法人エナガの会では、演劇を通して地域包括ケアを一般の方にわかりやすく伝える取り組みをしています。その大きな特徴は、在宅医、訪問看護師、ケアマネジャー、薬局薬剤師、さらには行政、病院の地域連携室、介護施設などで働く人など多職種の専門家たちによる手作りの劇を上演していることです。

今回の患者塾では、2016年に上演された「裕次郎さんの施設見学～終の棲家を考えよう。もっと、ずっと、大切に暮らし続けるために～」をDVDで参加者に鑑賞してもらい、それを踏まえて参加者が自由に話し合いました。(まとめ 北野敦子)



### ●劇の概要

現在、介護施設は多くの種類があり、細かく分けると20種類以上に及びます。この劇では、代表的な高齢者施設として、有料老人ホーム、グループホーム、サービス付き高齢者住宅、介護老人保健施設(老健)、特別養護老人施設(特養)を取りあげ、「裕次郎さん」が町内会の方々と見学して回りながら施設の特徴を学んでいくというストーリーになっています。

実際に、それぞれの施設は、特徴や入所条件、費用もさまざまです。そこで、一般の方々にどのような施設があるのか知ってもらい、どのような状態ならどの施設を選べばいいのかを理解してもらおうと、劇のなかでわかりやすく表現する工夫がなされています。具体的には、事前に考えておかなければいけない点はスライドを使って説明したり、コントのようなシーンも交えたりと、楽しく学べる内容になっていました。

高齢者施設を選ぶ際のポイントは、施設の特徴を理

解したうえで、自分や家族に合った施設を絞り込み、まずは見学して納得いくまで質問すること。「ひ・い・き・に・し・て・や」とゴロに合わせた質問の仕方の説明もありました。

「ひ」は費用(いくらかかるのか)、「い」は医療(医師や看護師が常勤しているかなど)、「き」は入所の期間、「に」は入所者や職員の人数、「し」は支援してくれる内容について、「て」は手続きについて(入所の条件や方法など)、「や」は夜間の体制。「これらを忘れずにきちんと聞いておきましょう」という説明がありました。

また、劇中には、悩みの相談に専門家が答えてくれるシーンもあり、「理想の施設の探し方は？」という問いには、「利用体験ができる施設もあるので、そういうのを利用してみるも一案」と紹介されていました。

「家族を施設に入所させることに抵抗がある」という悩みには、「長く介護をしていると、疲れもたまると、精神的にもきつくなることがある。家族がずっと介護をしたくてもできない事情が出てくれば、無理をしないで上手に施設を利用し、本人はもちろん家族の方も安心して暮らせるようにすることも大事なこと」というアドバイスもありました。

劇のしめくりでは、地域包括ケアシステムの構築についての詳しい説明がありました。住民が住み慣れた地域で、たとえ一人暮らしで介護が必要な人であっても、24時間365日、毎日安心して暮らせるようにする仕組みの構築です。利用者になり得る私たちが考えておくべき大事なことは、患者本人がよく考えて選択すること。そして本人だけでなく家族の気持ちや心構えも大切にしながら、住まいと住まい方を考えていくことが必要とのこと。そのうえで、介護予防・生活支援の基盤づく

りをし、医療・看護・介護・リハビリテーション・保健・福祉それぞれの専門家が協力して、地域包括ケアシステムの構築を進める必要性が示されていました。

### ●スタッフとして劇を鑑賞して

この劇は、医療・介護・行政のそれぞれの専門職が集い、シナリオから手作りで作られています。舞台づくりの専門家ではないため、多少音声が聞きとりにくかったり、シーンが見えにくかったりする場面もありましたが、地域の方にとっては知っている専門職が登場するので身近に感じられ、理解を深めるよい機会になっているのではないかと感じました。

そもそもこの劇を上演し始めたのは、広く一般の方々に地域包括ケアを知ってもらいたいという思いからです。しかし、制作を進めていくなかで、医療者や介護職がお互いを理解するよい機会にもなったそうです。それぞれの地域に合った方法で医療者と介護職の、行政の人たちが協働しながら、患者・利用者に切れ目なく安心して利用できる地域包括ケアシステムを充実させていくことが、これからの時代には必要不可欠です。この劇を鑑賞し、そのことを少し理解できたように思いました。また、私たちも地域包括ケアシステムに関心を持ち、理解する努力をしたうえで、よりよい未来を一緒に築いていきたいと思いました。

## 参加者の感想

**Aさん** 年長的に、そろそろ自分も施設を考えておかなければと思っていたため、この劇の内容にはとても興味がありました。有料老人ホームの食事付見学会の案内チラシを目にする但也有りますが、実際に入所を考えると費用が高額であるため、見学に行くことすらためらってしまいます。やはり、地域のグループホームやデイサービスが利用しやすいだろうと考えています。

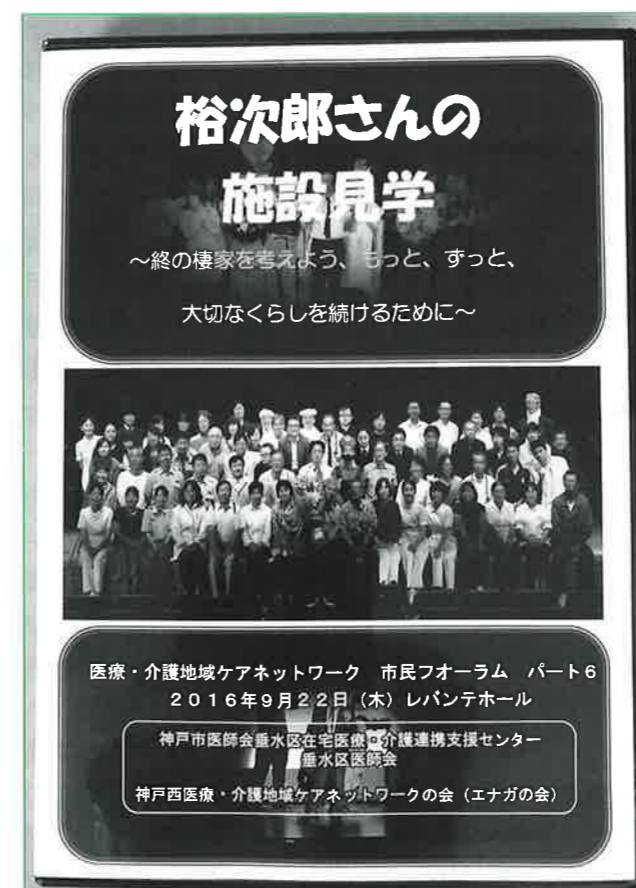
**Bさん** 劇を見て、地域で仕事をされている方々のつながりを感じることができてよかったです。ただ、劇中で入院する人、病気になる人、と話の展開が早かったところがわかりにくかったです。

**Cさん** 以前、兄夫婦が母の介護に疲れ、ショートステイを利用したことがあったのですが、利用するたびに母は熱を出して帰ってきていたそうです。当時はいまいち介護サービスが充実しておらず、誰に相談すればいいのかわかりませんでした。今回、劇を鑑賞して得た情報は、今後活かせると思います。

**Dさん** 劇のなかに登場していたそれぞれの職種についてもどんな役割でどんな仕事をされているかの説明があれば、もっとわかりやすかったと思います。名前は聞いたことがあっても、具体的な役割について知らないことは多いです。たとえば、リハビリをおこなう理学療法士や作業療法士、言語聴覚士についても、明確な違いが理解できていません。

**Eさん** 自分もそろそろ施設を考えておく時期なのかと思いますが、夫婦2人である間は「なんとかなるかな」と考えがちです。有料老人ホームに2人で入所するのは費用が高すぎるし、介護施設が自分に適しているのかどうかわかりません。施設を見学することは、人によってタイミングが異なると思いますが、今回のような機会を利用して施設の種類や情報を知っておくことは必要ですね。そうすれば、自分の置かれた状況での判断がしやすくなると思います。

**Fさん** 今日のDVDは関心をもって拝見しました。じつは、私も介護福祉関係の多業種の人たちと劇団をやっています。介護や福祉の現場では、困っている方たちがたくさんいらっしゃる中で、それぞれの困りごとを解決するために、施設の種類や役割を理解してもらえようという内容で上演しています。私は健康運動実践指導者として働いていて、役所の福祉課の人、保健センターの人、ドクターなど、それぞれ多職種の方々と接していますので、「人」としての気持ちと「つながり」を大事に、日々、患者さんと職員の間で向き合っています。



DVD「裕次郎さんの施設見学」